

普及活動情勢報告（令和5年11月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

ユリの持続的な栽培に向けて ～土壌消毒後の窒素量測定を支援～



栽培中のユリ

10月16日、中土佐町のユリ栽培ほ場で、土壌還元消毒後の土壌中の窒素量を測定するために土を採取しました。

ユリ栽培では、「基肥窒素施用量が多いと茎が軟弱になる」と言われていますが、土壌還元処理時に投入する有機資材の適切な量は明らかになっていません。そのため、当課は、作終了後に米ぬかを利用した土壌還元処理を行っているユリ農家と共に、5月の土壌還元処理前と10月の処理後の土壌分析に取り組んでいます。

今後は、窒素量の変化を確認して、有機資材の適量施用に活かしていきます。併せて、処理後のユリの生育や病害の発生についても調査し、ユリの生産性向上に取り組んでいきます。

今年もたくさん収穫しましょう！ ～津野山ユズ部会目慣らし会～



目慣らしをする生産者

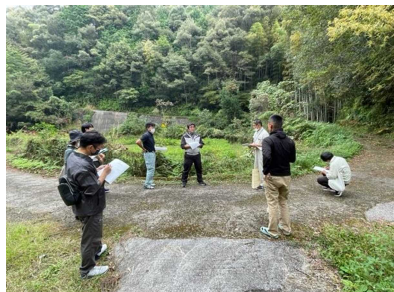
10月18日、津野町のJA高知県高西営農経済センターで津野山ユズ部会が目慣らし会を開催し、約100人の生産者が出席しました。

JAは、出荷可能な果実を見せながら収穫する際の注意点等について説明し、JA青壮年部による収穫作業受託について紹介しました。

当課は、GAPの取組みについて説明し、集荷時のGAP点検シートの提出を促しました。

今後は、JAと協力してユズ園の荒廃化を防ぐための労働力確保について検討していきます。

有機農業の現状把握と推進に向けて ～有機農業実務担当者研修会（第1回）の開催～



ほ場にて有機農業者の考えを聞く関係者

10月20日、当課管内の有機農業推進の窓口となる市町、JAの実務担当者向けに研修会を開催しました。

まず、有機栽培しているショウガほ場を見学し、生産者との意見交換をしました。続いて会場を移し、実務担当者で有機農業・有機農産物の理解を進めるとともに、各機関での有機農業の現状について情報交換しました。

生産者の有機農業に対する考え方、始める前に準備しておくべき心構えや行政やJAの関わりについて話を伺いました。情報交換では現状の把握とともに有機農業推進の困難さについても意見が出されました。

当課は今後も引き続き、研修会の開催を計画しており、関係機関での有機農業の理解を一層進め、課題を整理していきます。

特産品の開発

～農家グループ「すまいる」の試作検討支援～



真空包装機を操作する代表者

10月24日、梶原町で農家グループ「すまいる」の代表者と6次産業化セミナー実践コースⅤに向けて、試作品づくりとパッケージの検討を行いました。「すまいる」は、津野山地域の基幹品目である甘長とうがらしを活かした特産品づくりを目指し、セミナーの講師からアドバイスを受け試行錯誤しながら商品化に取り組んでいます。

代表者からは「商品を袋詰めにした後、どれくらいの真空状態にしたら良いかわからない」、「手に取ってもらえるようなパッケージの作成はなかなか難しい」等の意見がありました。

商品化に向けて今後も、表示やラベル、原価計算、商品規格書の作成等を支援していきます。

環境データ見よう、活用しよう（キュウリ） ～データ駆動型農業・データ活用支援～



環境測定装置のデータを確認する農家ら

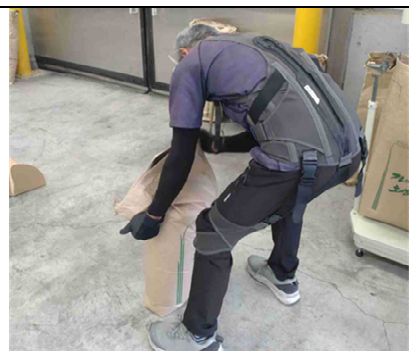
10月24日、11月7日、当課はJA土佐くろしお営農指導課と連携してキュウリ農家12戸を巡回し、環境データを活用した栽培管理を支援しました。

ハウスでは、生育状況と環境測定装置のデータを農家とともに確認しながら、今後の温度設定などについて助言しました。

生産者からは、「午後の温度がちょっと高すぎたかね」、「データを見ると自分の管理がよくわかる」、「毎日気をつけて（測定装置を）見んといかんねえ」といった声が聞かれました。

当課は、今後も定期的な巡回により環境データを活用した栽培管理を支援していきます。

生産者の作業負担低減に向けて ～アシストスーツの紹介～



アシストスーツを着用して作業する生産者

10月30日、梶原町で水稻生産者1人に当課が所有するアシストスーツ3種類を紹介し、体型に合った1種類を貸し出しました。

短時間でしたが、生産者がアシストスーツを着用して作業を行い、「着用しやすく、作業の邪魔にならない」、「重量物を運ぶ作業でも腰への負担が軽減されているように感じる」といった意見がありました。

2週間程度の実作業後に、使用感について聞き取りをする予定です。

当課は、今後もアシストスーツの貸し出しやスマート農業機器に関する情報発信等を行っていきます。

冬場の管理に気をつけましょう ～JA 土佐くろしおインゲン部会現地検討会～



今後の栽培管理について説明する普及指導員

10月30日、須崎市、中土佐町の生産者ほ場で、JA土佐くろしおインゲン部会が現地検討会を開催し、生産者や営農指導員の計18人が参加しました。

当課は、今後の気象や栽培管理、冬場に発生しやすい病害虫の防除方法、試験品種の栽培上の注意点について説明しました。

生産者からは、「追肥を始めるタイミングはどうしたらいいか」といった質問や、「試験品種は既存品種より側枝の出が数日遅かった」等の活発な意見交換が行われました。

今後も個別巡回等を通して、インゲンの栽培技術の指導と試験品種に関する情報提供を行っていきます。

農業の担い手確保に向けて ～梶原高校出前授業（米ナス・小ナス編）～



米ナス・小ナスについて講義する普及指導員

10月31日、津野山地域営農連絡協議会が、梶原高校農業コースの2年生5人を対象に、出前授業を開催しました。

当課は、津野山地域の米ナス・小ナスについて、栽培の歴史や栽培方法などを講義しました。続いて、農家のほ場で収穫、調製及び箱詰め作業を体験し、最後に米ナスを使った料理を試食しました。

生徒からは、「米ナス・小ナスについて詳しく知る事ができた」、「ナスは苦手だがおいしく食べることができた」といった声があり、米ナス・小ナスに関心を持ってもらう機会となりました。

将来の農業の担い手につながることを期待して、11月中旬には、ユズについての授業を計画しています。

水稻生産の継続に向けて ～水稻大規模耕作者研修会～



説明を聞く参加者ら

11月6日、当課が主催し、須崎総合庁舎会議室において、当課管内水稻大規模耕作者、市町及びJA職員ほか、講師を含む26人の参加を得て水稻関連施策についての説明と意見交換を実施しました。

意見交換では、「制度がわかりにくい」、「親世代は先祖からの農地を守る意識で耕作しているが、若い世代にはその意識は無く、経営が成り立たなければやらない」、「どうしたら個人や集落営農組織が水稻の耕作を続けられるか話し合いたい」等の、会のあり方や耕作を続けていく上での問題など率直な意見が出ました。

当課は、関係機関と会のあり方等を検討して、今後も話し合いの場を設定していきます。